

就学前教育と小学校教育の円滑な接続

就学前教育と小学校教育との円滑な接続を図るには、育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、保育者と小学校教員が連携の意識をもち、子どもの育ちと学びを共有することを通して、双方の教育について理解を深めていくことが大切です。

1 円滑な接続を図るための組織的な連携

子どもの育ちと学びを支える組織的な連携

市町村担当者と連携しながら、円滑な接続を図るための組織体制を構築しましょう。

- 【例】〔就学前〕管理職、5歳児クラス担任等 〔小学校〕管理職、教務主任、1年生担任等
- ・双方の管理職同士の連携と管理職のリーダーシップによる連携窓口の明確化
- ・互恵性のあるつながりを継続させるための年間計画作成と実践、評価、改善
- ・互いの教育内容や指導方法に関する理解の場の設定

互恵性のある交流活動の実施〔参照：2へ〕

双方の教育について理解を深める相互参観及び協議等への参加〔参照：3へ〕

重要 交流活動や相互参観等を一時的な取組にすることなく、教育課程や全体的な計画に位置付け、計画的・継続的に実施していくことが大切です。また、連携は担当者だけに任せず、全職員 の理解と協力の下、実施できるようにする必要があります。

2 互恵性のある交流活動

交流活動の事前や事後には次のような活動が必要です。振り返りシート等を活用し、交流活動の評価や子どもの育ちの見取りに生かしましょう。

【事前の活動（例）】

- 保育のねらいと授業のねらいを共有する。
- ねらいを達成するための環境の構成や援助について考え、準備を協働的に進める。
- 指導者の役割分担について共通理解を図る。

【事後の活動（例）】

- 交流活動の評価を行う。
 - ・ねらいの達成状況
 - ・子どもの育ちや学びに対する気付き
 - ・環境の構成や援助 等
- 次回の交流活動に向けた改善点を共有する。

生活科における交流活動後の協議（例）



子どもたちは小学生が作ったおもちゃに憧れ、園に戻ると早速おもちゃを作り始めていました。



年長児が理解できるように遊び方の説明を考えたり、より楽しい遊びになるようにアドバイスをし合っておもちゃを改良したりしていました。当日も堂々と会を進行する姿から、充実感や成就感を得ている様子が伝わってきました。



小学生とペアになって遊ぶことで、遊び方について質問したり教えてもらったりするなど、言葉でやり取りする姿がたくさん見られましたね。就学への不安を感じている子どももいましたが、交流活動を通して小学生と親しくなったことで安心感を得ることができたようです。

3 保育参観及び協議等への参加

北管内において、小学校教員による保育参観は増えています。互いの教育内容、指導方法の違いや共通点について更に理解を深めるためには、保育参観だけにとどまらず保育者との協議等に参加することが有効です。次のような保育参観の視点を共有し、保育参観後は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子どもの育ちや学びについて協議を行いましょう。

【保育参観の視点（例）】

- 何に興味をもって遊んでいるのか。
- 遊びの中で、どのような力が育まれようとしているのか。
- 育ちを支える保育者の関わり（環境の構成や援助）はどうであったか。

保育参観後の協議（例）



協力して砂山を作ったりトンネルを掘ったりしていました。目的を共有し遊びを進める姿は「協同性」や「言葉による伝え合い」につながると感じます。子どもの考えを受け止め、言葉にして周囲に伝えながら、更に考えを引き出そうとする保育者の関わりも参考になりました。



トンネル完成後は水を流したくなるだろうと予想し、あらかじめ水場にたらいを置いておきました。複数名で力を合わせて水を運び、流すことで、自分たちでやり遂げる達成感を味わえたと思います。



このような経験が、小学校生活において意見を交わしながら協力し合う姿や、主体的に問題を解決しようとする態度につながっているのですね。

「幼保小の架け橋プログラム」の推進に向けて

交流活動や相互参観を通して、子どもの育ちを中心に据えた対話ができました。小学校区で共通する子どものよさや課題についても協議することで、期待する子ども像が見えてきました。



園長



校長



市町村担当者

期待する子ども像に迫るためのカリキュラム開発に向け、このような協議の機会を定期的に設定しましょう。協議内容は全教職員に周知します。今後も組織と組織の連携を図っていきましょう。